2021.3.17

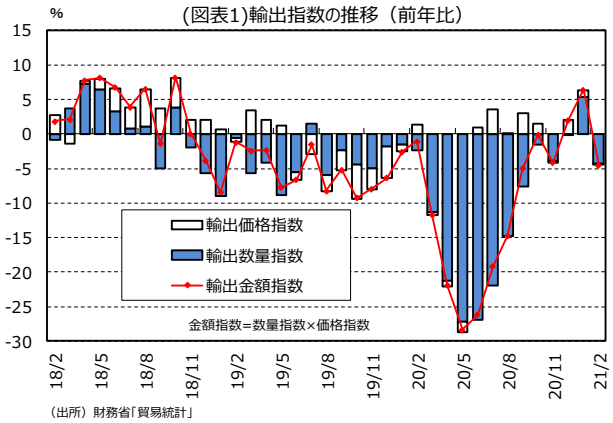
日本の輸出はいったん足踏み

フェロー チーフエコノミスト　小玉　祐一

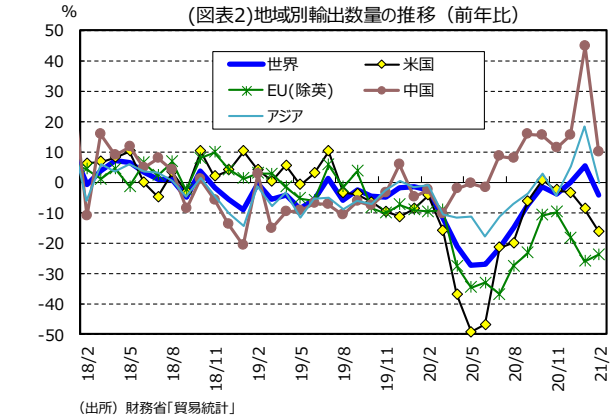
１．輸出金額が３ヵ月ぶりに前年比マイナス

財務省から発表された２月の貿易統計によると、輸出金額は前年比▲4.5%と落ち込んだ。12 月に 25 ヵ月ぶりのプラス転換となった後、1 月も 2 ヵ月連続でプラスだったが、3 ヵ月ぶりにマイナスに逆戻りした形（図表 1）。輸出金額を価格部分と数量部分に分解すると、輸出価格が同▲0.2%、輸出数量が同▲4.3%となっており、実勢を表す数量ベース主導でのマイナスとなっている。

1、2 月は中国がかく乱要因になった面もある。1 月の輸出金額は同＋6.4%と堅調な伸びだったが、中国向けの伸びが同＋37.5%（数量ベースでは同＋44.8%）と記録的な高さだった影響が大きかった。日本からの輸出減の要因となる中国の春節休暇が、2020 年は 1 月だったのに対し、2021 年は 2 月だったためで、2 月の対中輸出金額は同＋3.4%と大幅に鈍化している。春節休暇にも関わらずプラスになったのは、対中輸出の基調の強さを示しているとも言えるが、他地域向けが弱く、総じて年明けの輸出はいったんモメンタムを失っているのが実態といえる。



（出所）財務省「貿易統計」

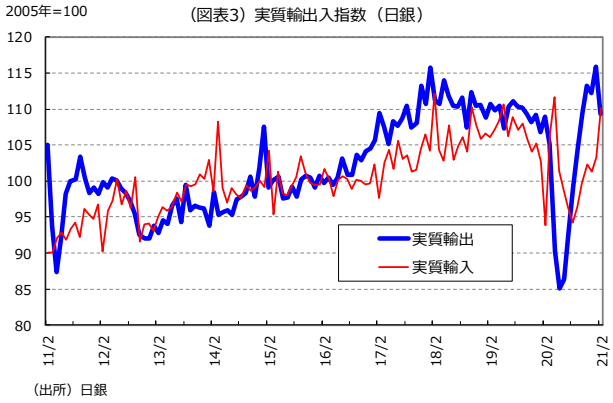


（出所）財務省「貿易統計」

２．実態としては１月から鈍化

輸出の実勢を示す輸出数量の伸びを主要相手国・地域別に見ると（図表 2）、米国向けはマイナス幅が大きく拡大した（1 月：前年比▲8.7%→2 月：▲16.4%）。自動車の回復が一巡した影響が大きく、米国向け輸出は 10 月に同＋0.8%と小幅プラスになったのを除けば、2019 年 8 月以降、約 1 年半にわたりマイナストレンドが続いている。

EU 向け（同▲26.1%→▲23.9%）も大幅マイナスが続いている。昨年末以降、主要国が再びロックダウンを強化した影響が大きい。アジア向け（同＋18.4%→▲0.4%）は中国向けの鈍化に影響される形で、3 ヵ月ぶりのマイナスとなった。中国以外は ASEAN 向けも NIEs 向けも弱い。



（出所）日銀

トータルの数字のみ発表されている季節調整値も、前月比で▲4.7%となった。同日に発表された日銀の実質輸出も前月比▲5.6%とマイナスになっている（図表 3）。1 月は同＋3.3%と堅調だったが、春節の時期がかく乱要因になっていたと考えられる。

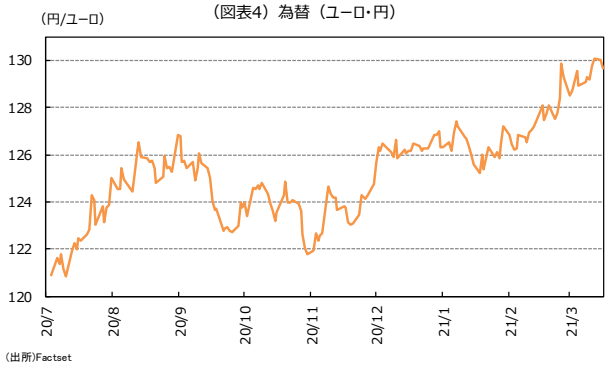
３．欧米向けが悪化

国別、品目別の詳細なデータが取得可能な金額ベースで米国向けの内訳を見ると、構成比で 34%を占める輸送用機器が同▲20.7%（1 月：同▲6.7%）、23%を占める一般機械が同▲13.9%（1 月：同▲7.9%）、15%を占める電気機器が同▲6.1%（1 月：同▲3.4%）といずれもマイナス幅が拡大した。9%を占める化学製品は、医薬品が１月に続き同＋33.3%と高い伸びとなったこともあって、同▲3.5%（1 月：同＋12.7%）と小幅マイナスにとどまった。さらに品目別の内訳を追うと、輸送用機器の中では、乗用車のマイナス寄与幅が突出している。一般機械の中では、原動機のマイナス寄与幅が大きく、半導体製造装置がこれに次ぐ。電気機器の中では電気計測機器のマイナス寄与幅が大きくなっている。

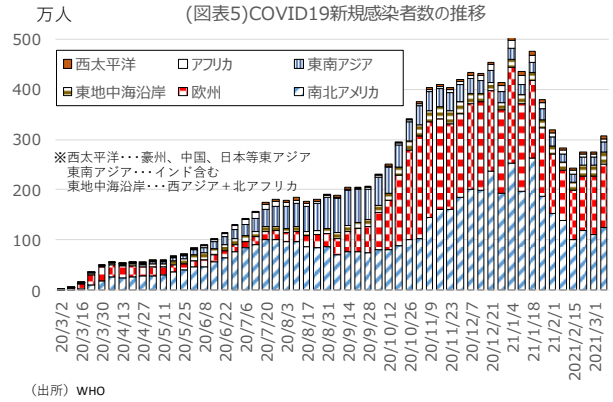
一方、EU の輸出金額を品目別に見ると、構成比で 24%を占める輸送用機器が同▲13.8%(1 月：同▲13.1%)と落ち込んだのが足を引っ張っている。バス・トラックは同＋54.0%と大きく伸びたが、乗用車が同▲27.3%と落ち込んだのが響いた。主要国別にみると、スペインのマイナス幅が同▲46.4%（1 月：同▲20.8%）と、前年の半分近くに減っているのが目立つが、ウェートの大きいドイツは同▲4.0%（1 月：同▲2.5%）、2 番目に大きいオランダが同▲0.5%（1 月：同＋6.2%）と、いずれも小幅マイナスにとどまった。また、EU 域外だが、対欧州では 3 番目にウェートが大きい英国は同▲29.3%（1 月：同▲43.3%）と大きく落ち込んでいる。1 月との比較ではマイナス幅は縮小したものの、昨年末以降、欧州の中でももっとも厳しいロックダウンを実施した影響が残っている。

EU 向け輸出については、輸出金額が前年比▲3.3%と小幅マイナスにとどまっているのに対し、数量指数が前年比▲23.9%と乖離が大きくなっているのも特徴である。価格指数が同＋27.0%と大幅プラスになっているためで、昨年央以降顕著となった円安ユーロ高トレンドの影響で（図表4）、輸出金額の円換算額が大きくなっていると考えられる。輸出の実勢を示すのは数量ベースであり、数量ベースでは品目別の詳細がわからないのが難点だが、足元の欧州向け輸出は苦戦が続いている。

（図表4）為替（ユーロ･円）



(図表5)COVID19新規感染者数の推移



（図表6）米国の追加経済対策概要

◎昨年12月末成立の追加経済対策の概要

失業保険給付拡充（週300ドル上乗せ）
給与保護プログラム（PPP）延長
家計への現金給付（1人600ドル支給）
教育学校関連補助
コロナ検査ワクチン補助
航空業界支援
立退きに直面する賃貸人向け支援等
合計　約0.9兆ドル

◎バイデン氏の追加経済対策案の概要（1/14発表）

家計への現金給付（追加で1人1,400ドル）
州･地方政府支援
パンデミック失業給付拡充（週300ドル⇒週400ドル）
有給病気休暇の拡充
学校再開、その他教育財源
ワクチン接種、検査体制強化
家賃支援、緊急住宅支援等
合計　約1.9兆ドル

（出所）各種報道資料等

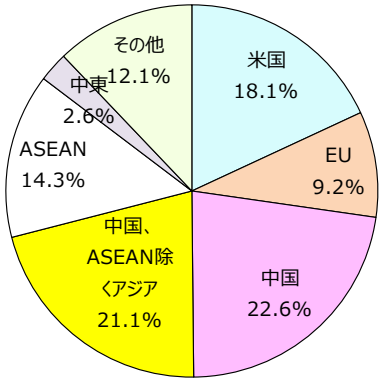
４．それでも 2021 年度の見通しは良好

欧州各国が実施していた厳しいロックダウンは、順次緩和に向かっている。欧米の新規感染者数は一時よりも大きく減少しており（図表 5）、ここ 1 ヵ月は下げ止まっているため油断はできないものの、今後の欧米向け輸出は徐々に回復に向かう展開が期待できる。為替相場の円安トレンドも追い風である。近年、日本の輸出企業は為替次第で現地通貨建ての販売価格を大きく動かさなくなっ

てきているものの、このまま円安トレンドが維持されれば、数量ベースでも徐々に回復に向かう展開が期待できる。

主要先進国の 10－12 月期の実質成長率は総じて鈍化したものの、落ち込みの多くはサービス部門で生じており、貿易に影響する物品生産部門の活動が大きく鈍化したわけではない。ユーロ圏の鉱工業生産の季調済前月比の伸びを追うと、昨年 10 月以降 1 月まで、＋2.5%、＋2.2%、▲0.%、＋0.8%と底堅い推移が続いている。米国では、1.9 兆ドルの巨額追加経済対策が、バイデン大統領の署名を経て 11 日に成立した（図表 6）。政府は、1 人当たり最大 1,400 ドルの現金給付を即座に始める方針である。当研究所は、米国の 2021 年の実質成長率を、11 月経済見通し時点では前年比＋3.0%としていたが、2 月経済見通しでは同＋4.6%まで上方修正した。

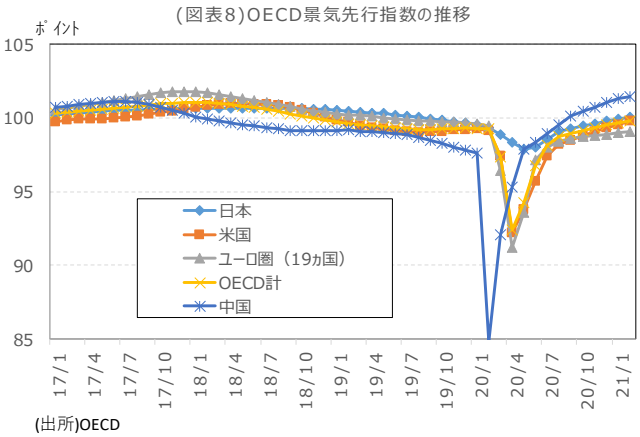
（図表7）輸出の地域別内訳（過去1年間）



（出所）財務省「貿易統計」

中国の 10－12 月期の実質 GDP 成長率は前年比＋6.5%と、経済活動はすでにほぼ正常なレベルに戻っている。2020 年通年の日本からの輸出を見ても、米国向けが同▲17.3%、EU 向けが同▲15.1%と大きく落ち込む一方で、中国向けが同＋2.7%と、主要国・地域の中では唯一プラスの伸びを確保した。直近 1 年間の主要国・地域別の輸出ウェートをみると、中国向けは 22.6%まで拡大する半面、米国向けは 18.1%に縮小し、4 ポイント以上の差がついた（図表 7）。中国、ASEAN、その他アジアの合計ウェートは 58%に及び、貿易のアジアシフトが一段と顕著になっている。

(図表8)OECD景気先行指数の推移



(出所)OECD

OECD 景気先行指数からも、中国の景気回復ペースが他国・地域を凌駕している様子が現れている（図表 8）。1－3 月期の GDP は、前年同期の数字が低いこともあって、2 割前後に達する可能性がある。中国政府は、2021 年も 5G 通信網やデータセンター、人工知能、都市間鉄道等のいわゆる「新型インフラ」部門に積極的な投資を続ける姿勢を表明しており、通年でも 8～9%の伸びを確保する可能性が有力な情勢である。

ワクチン普及が世界景気の回復を加速させることへの期待は大きいが、現状では過大評価も慎むべきで、たとえワクチン接種が進んでも、感染の拡大と縮小自体は今後も繰り返される可能性が高い。ただ、その波は年を追うごとに小さくなり、景気への負のインパクトも時間の経過とともに弱まっていくというのが現時点ではもっともありうべきシナリオである。各国の財政政策の効果が一巡した後に、成長率が大幅に下がる懸念があるほか、FRB（米連邦準備制度理事会）による早期の引き締め方向への政策転換も警戒が必要だが、2021 年度の日本の輸出は基本的に底堅い推移が続くと予想される。

※本レポートは、明治安田総合研究所が情報提供資料として作成したものであり、いかなる契約の締結や解約を目的としたものではありません。掲載内容について細心の注意を払っていますが、これによりその情報に関する信頼性、正確性、完全性などについて保証するものではありません。掲載された情報を用いた結果生じた直接的、間接的トラブルや損失、損害については、一切の責任を負いません。またこれらの情報は、予告なく掲載を変更、中断、中止することがあります。

●照会先●　株式会社 明治安田総合研究所　　〒102-0073 東京都千代田区九段北3－2－11 TEL03-6261-6411